巻 頭 言

日本を支える人材を目指して！

熊本県立第二高等学校長
森田　淳士

平成 15 年度に指定を受けスタートした第二高校のＳＳＨ事業は，今年度で 22 年目となり，指定期は先導的改革Ⅰ期の３年目となりました。来年度の先導的改革Ⅱ期の指定に向け，今年度は，これまでのＳＳＨ事業を振り返ることが多くありました。課題研究の取組，評価方法の開発，組織体制の見直しなど，これまで第二高校のＳＳＨ事業に携わってこられた教職員や関係機関の皆さんのご尽力，研究活動に取り組んできた生徒たちの努力によって第二高校のＳＳＨが築きあげられたものだとあらためて実感したところです。これまでの第二高校のＳＳＨ事業をご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

さて，平成 30 年に告示された新しい学習指導要領で学ぶ高校生が，今年度で全学年となりました。今回の学習指導要領の大きな柱の一つに，探究的な学習や協働的な学習の重要性があります。全国のＳＳＨ校では探究的な学習や協働的な学習を取組の中心に位置づけ，人材育成に取り組んできた実績があります。すべての高校生が探究的な学びに取り組む教育活動において，自校だけの活動に止まらずこれまでの成果を他校にも広く普及していく役割もあることを痛感しています。そのためには，第二高校での研究活動をとおして，校外の発表会などにも積極的に参加し，他の高校生に伝えていくことも重要なことだと思います。また，校外での発表は，普及する目的だけでなく発表する生徒のプレゼンテーション能力等も向上させることができます。校外での成果発表までを節目と考え，探究活動に取り組んでくれることを期待します。

話は変わりますが，2007 年に当時の政府の政策で「イノベーション 25」という指針が出されていました。2025 年までを視野に入れ，日本の未来で実現されるべき姿を示したものでした。高校生の皆さんが生まれた頃の内容ですが，当時は 18 年後の遠い未来のことでした。あっという間にその 2025 年になりました。様々な分野で実現すべき将来の姿が記載されています。詳細はここでは書きませんが，実現できているものもあれば，実現できていないものもあり，結果の可否は別として，多くの人々が新しい科学や技術の創出のために努力を重ねてきた経緯はしっかりと感じることができます。人間は頭に描いた夢のようなイメージを試行錯誤しながら，実現することができます。人間は日頃の生活の中で疑問に思ったり，不便に思ったりすることをきっかけに，その課題の解決に挑み，いくつもの失敗を繰り返しながら新しいものを創出してきました。これからも人間はこの行程を繰り返しながら，さらに進化を続けていくことでしょう。現在の高校で取り組まれている『探究』という活動には，課題を見つけ解決策を考え，挑戦し続けるという課程が含まれています。高校生の皆さんは社会に出た後でもこの一連の活動を大変重要なことと認識して人生を歩んで，社会に貢献できる人材になって欲しいと願います。

最後になりますが，本事業にご支援・ご協力をいただきました文部科学省，科学技術振興機構，本校ＳＳＨ運営指導委員会，県教育委員会，連携いただいております大学及び関係機関の皆様に厚く感謝申し上げご挨拶といたします。